

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和3年第Ⅳ四半期（10～12月）

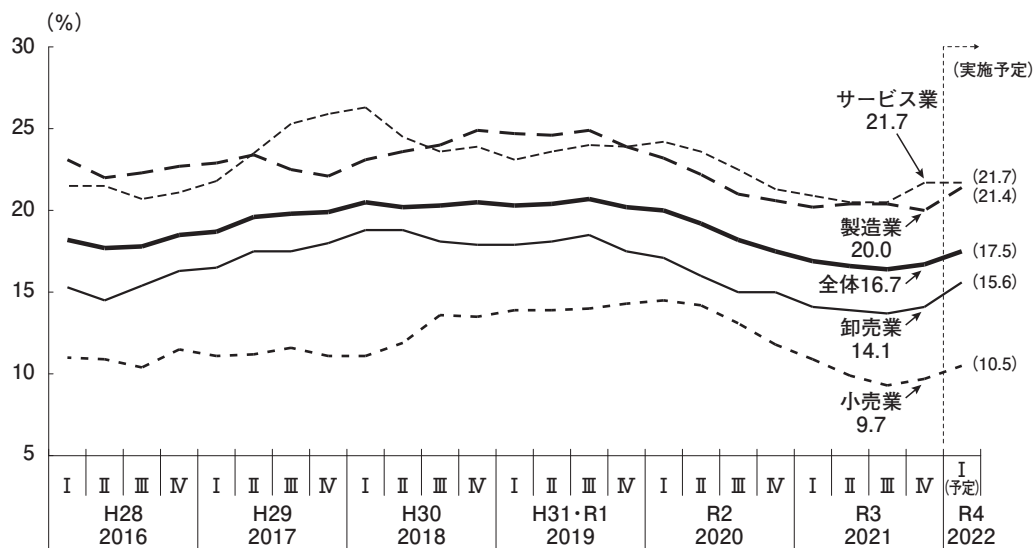
設備投資：わずかに上昇 資金繰り：やや改善
 採算状況：大幅に改善 雇用人員：大幅に不足感が強まる

■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（令和3年10～12月）に設備投資を「実施した」割合は全体では16.7%となり、前期（令和3年7～9月）の16.4%からわずかに上昇した。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合はサービス業21.7%（前期20.5%）が大幅に上昇、卸売業14.1%（同13.7%）と小売業9.7%（同9.3%）はともにわずかに上昇した。一方、製造業20.0%（同20.4%）はわずかに低下した。

図表1-1 設備投資の実施割合の推移 —後方4四半期移動平均—



注）来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

来期（令和4年1～3月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は全体では17.5%となり、当期と比べて大幅に上昇する見通しとなった。

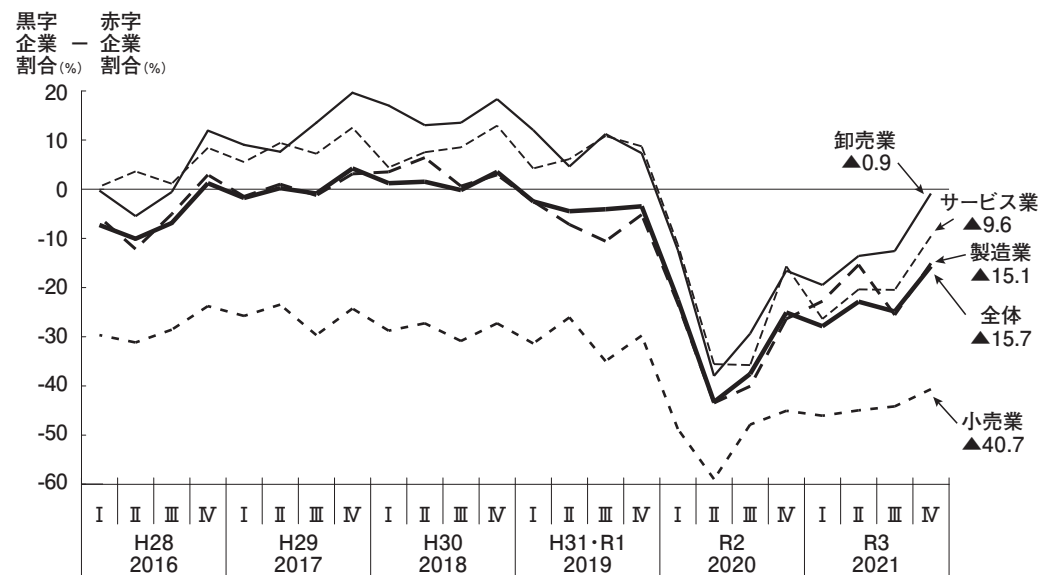
業種別にみると、設備投資の「実施予定」割合は製造業21.4%、卸売業15.6%、小売業10.5%がいずれも大幅に上昇し、サービス業21.7%は横ばいで推移した。

■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合で見ると、全体では▲15.7（前期▲24.9）となり、前期と比べて大幅に改善した。

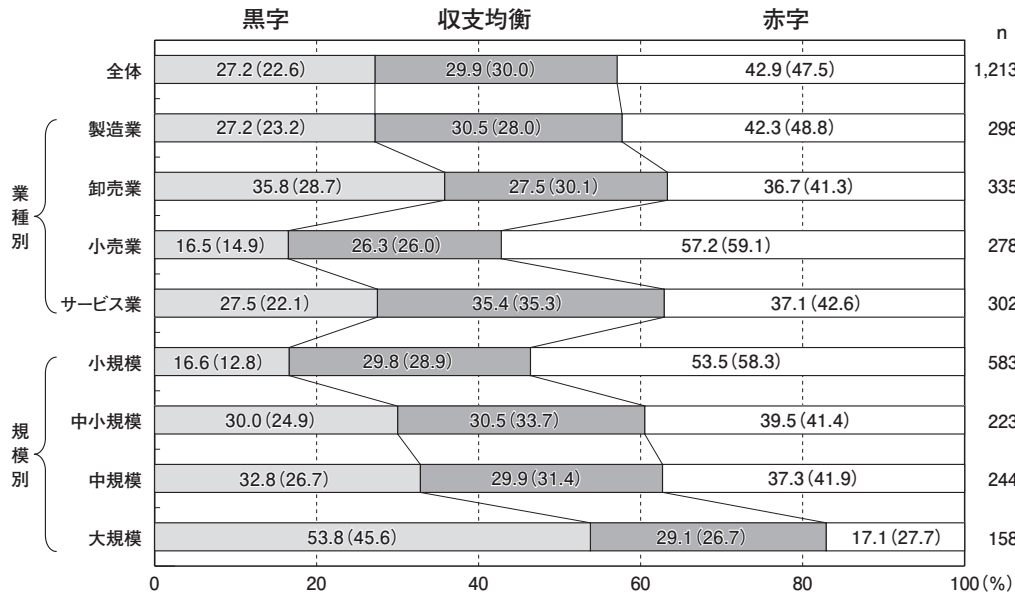
業種別にみると、製造業▲15.1（同▲25.6）は10.5ポイント増加、卸売業▲0.9（同▲12.6）は11.7ポイント増加、サービス業▲9.6（同▲20.5）は10.9ポイント増加しそれぞれ大幅に改善した。小売業▲40.7（同▲44.2）は3.5ポイント増加し改善した。

図表1-2 採算状況の推移



規模別にみると、全ての規模で黒字の割合が増加し、赤字の割合は低下した。

図表 1-3 採算状況 (業種別・規模別)



注) 規模別は規模不明を除く。() 内は前期 (令和3年7~9月) の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

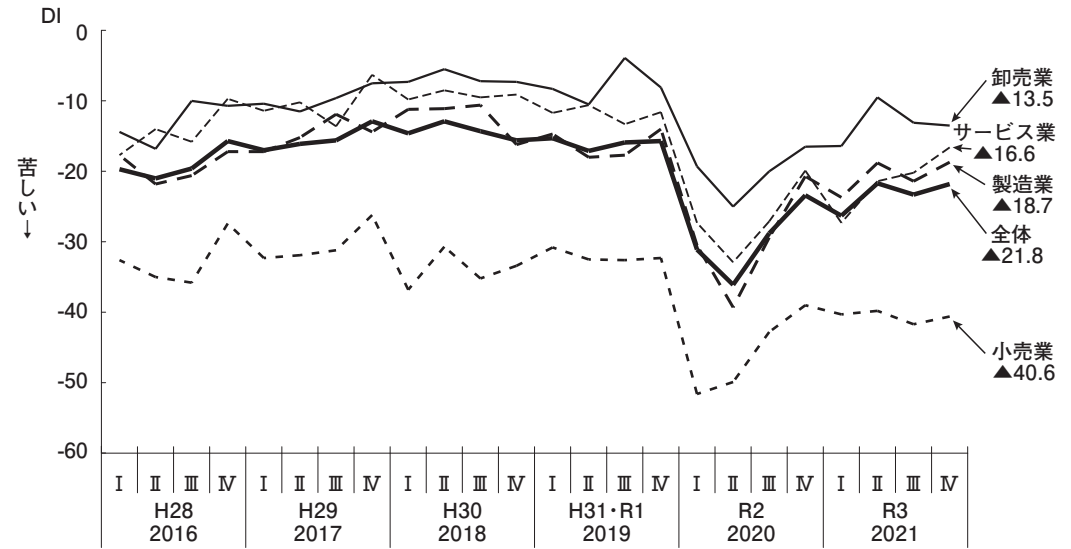
■ 資金繰り ■

当期の資金繰り状況を資金繰りDI (「楽」-「苦しい」) でみると、全体では▲21.8 (前期▲23.3) と1.5ポイント増加しやや改善した。

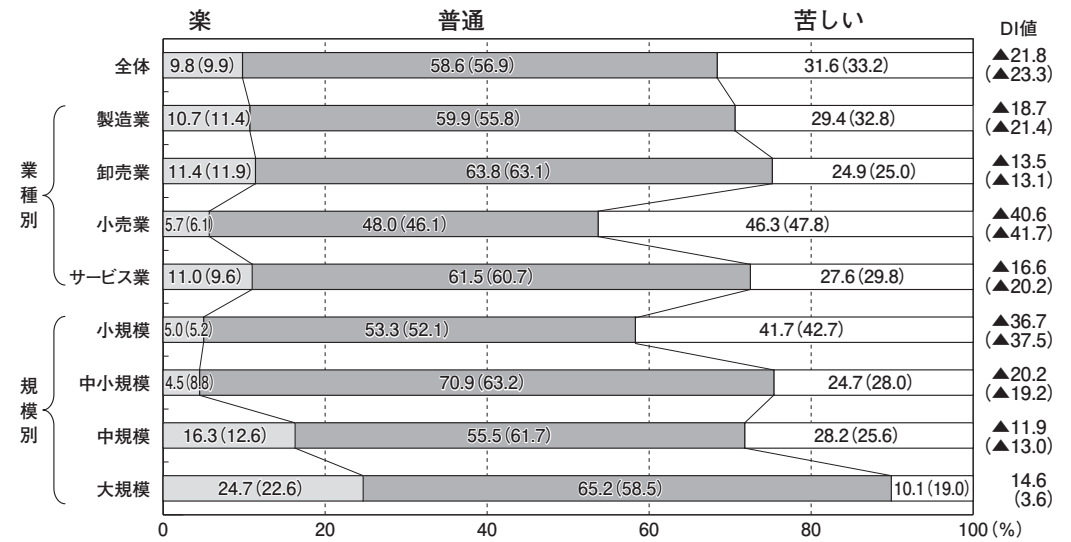
業種別にDI値をみると、サービス業▲16.6 (同▲20.2) は3.6ポイント増加し改善、製造業▲18.7 (同▲21.4) は2.7ポイント増加、小売業▲40.6 (同▲41.7) は1.1ポイント増加しともにやや改善した。卸売業▲13.5 (同▲13.1) は横ばいで推移した。

規模別にDI値をみると、大規模14.6 (同3.6) は11.0ポイント増加し大幅に改善した。

図表 1-4 資金繰りDIの推移



図表 1-5 資金繰り状況 (業種別・規模別)

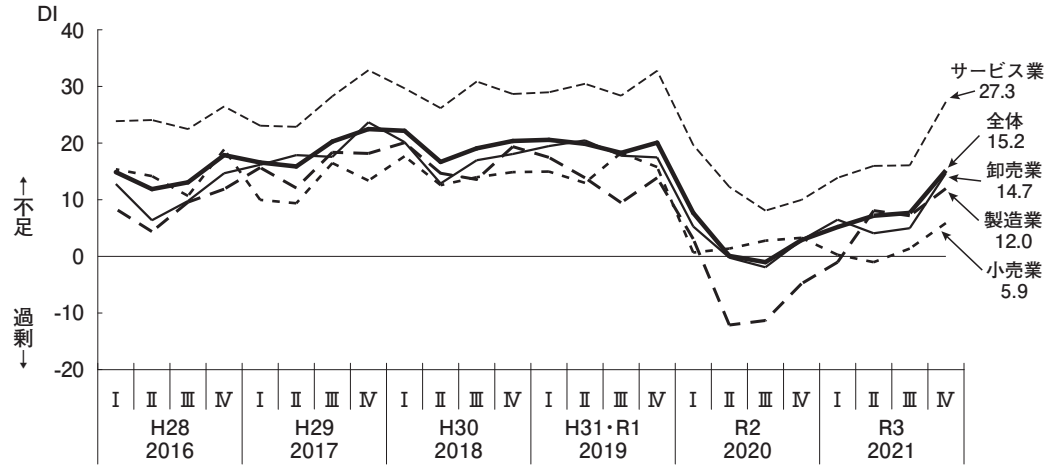


注) 規模別は規模不明を除く。() 内は前期 (令和3年7~9月) の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

■雇用人員■

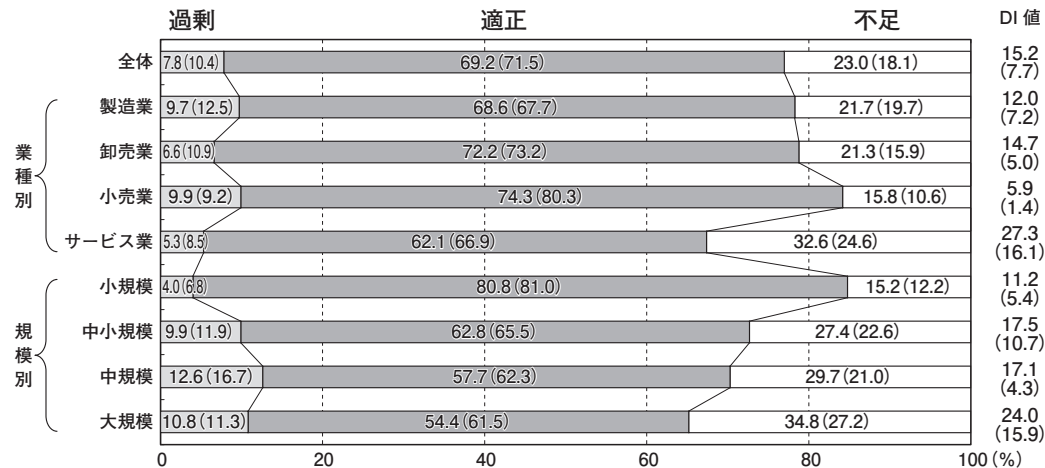
当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）で見ると、全体では15.2（前期7.7）となり、大幅に不足感が強まった。

図表1-6 雇用人員DIの推移



規模別にDI値をみると、全ての規模で大幅に不足感が強まった。なかでも中規模17.1（同4.3）は12.8ポイント増加した。

図表1-7 雇用人員の状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。()内は前期(令和3年7~9月)の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。